

## 英語好きを育てる教育への転換を！

＝平成 28 年度 英語力調査結果（中学 3 年生）の速報＝

2月24日、文部科学省は中学校3年生を対象とした英語の「聞く」「読む」「書く」「話す」の4技能を測る平成28年度英語力調査の結果（速報）を公表した。

平成28年度 英語力調査結果（中学3年生）の速報のポイント（全日教連要約・抜粋）

### 生徒全体の英語力の傾向

- 国の目標(CEFR (ヨーロッパ言語共通参照枠) A1 上位レベル以上)の生徒の割合が昨年度と比較し「読むこと」「話すこと」において微減(「読むこと: 26.1%→25.3%」「話すこと: 32.6%→31.2%」)、「聞くこと」「書くこと」は微増(「聞くこと: 20.2%→24.8%」「書くこと: 43.2%→50.8%」)となっており、4技能のバランスがとれておらず、依然として課題がある。
- 「書くこと」の得点者は、A1 上位レベル以上の割合が 50.8%と4技能の中で最も高いが、一方で、無得点者が 15.6%となるなど、昨年度と同様の傾向である。

### 英語学習に対する生徒の意識

- 「英語の学習は好きですか」
    - ・ 「英語の学習が好きではない」との回答が 45.4% (対前年 2.2 ポイント増加)。
    - ・ 特に「書くこと」については、テストスコアが高い層と低い層の英語学習に対する意欲の差が大きい。また、「書くこと」について、「英語学習が好きではない」と回答した A1 下位レベルの生徒は、「英語そのものが嫌い」、「単語の綴りや文字を覚えることが難しい、文法が難しい」と回答した者が多い。
- ⇒ 生徒が「英語を使って何ができるようになるか」という観点から、具体的な教育目標を設定し、生徒の学ぶ意欲の向上を図るようにする。特に、無得点者が多かった「書くこと」については、段階的に文を書くことに慣れた上で、文字を書いたり読んだりすることの有用性を感じることができるよう指導するなど、学習意欲を向上する工夫や具体的な課題を改善する授業改善が必要。

### 外国語活動指導に対する生徒・教員の意識

#### 〔生徒〕

- 「小学校の時、英語の授業は好きでしたか。」
  - ・ 「英語の授業が好きだと思っていた」との回答が、57.0%。
- 「小学校の時、英語を使ってしてみたいことは何でしたか」
  - ・ 「特に学校の授業以外での利用を考えていなかった」との回答が、44.2%

#### 〔教員〕

- 「小学校で外国語活動が行われたことで貴校の外国語担当教員に変化は見られましたか。」
    - ・ 小学校で外国語活動が行われたことで、「小中連携に関する取組が一層促進された」と回答した教員の割合は、52.6%と最も高い。一方、「外国語活動を踏まえた指導の工夫がみられるようになった」と回答した教員の割合は 0.6%となっており、具体的な指導における連携は意識されていない状況が見られる。
- ⇒ A1 下位レベルで「書くこと」において文字や単語のつづりに苦手意識を持つ生徒は、小学校において、音声中心のコミュニケーションを体験したことを踏まえ、中学校の初めの段階で、小学校で慣れ親しんだ語句や表現を用いて、英語の書き方の規則や語順を意識しながら、自分の気持ちを書いたりする活動を行い、「書くこと」への抵抗感を払拭することが必要。また、生徒が「書くこと」の有用性を感じることを通して、学んだ語句や表現を場面において適切に活用できるよう指導の改善を図ることが必要。

(詳しくは、[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/kokusai/gaikokugo/1382899.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1382899.htm))

今回公表された英語力調査結果では、4技能のうち「書くこと」が目標値の50%を超えたが、無得点者の割合が依然多くなっている。また、他技能においてはあまり変化が見られない。中学校の英語教員の意識調査では、生徒が小学校での外国語活動を経験することで、英語の音声に慣れ親しんでいると感じている。しかし、それを活かした具体的な指導における連携は意識されていない。また、小学校では外国語活動で英語を学習しても授業以外で活用する機会が少なく、その必要性を感じられなかった生徒が半数近くを占めている。

次期学習指導要領では、小学校高学年で英語を教科化し、読み書きや過去形等の文法も扱うようになる。それを受け、授業で単語の暗記や文法の学習に重点を置くあまりに児童の英語嫌いになる時期を早めてしまいかねない。小学校英語本来の目標である英語を使ってコミュニケーションしたいという意欲の育成を重視するならば、指導内容を見直し、子供たちが英語を楽しみ、慣れ親しめるようにしなければならない。

全日教連は、学校現場の実状を伝えるとともに、英語学習の指導方法の在り方や小中での連携、更に必要な人的確保や指導体制の充実等について、文部科学省に対して検証と改善を要望・提言していく。